

# 北九州市のごみ問題について

03A1710 甲斐 健二

## 1. 基本理念の確立と資源化目標値の設定

北九州市は平成5年にごみ処理の基本理念を「処理重視型」から「リサイクル型」へ転換し、かん・びん・ペットボトルの資源化物の分別回収など資源リサイクルに積極的に取り組んできた。

21世紀のモデルとなる資源循環型社会の形成に向けて、今後のごみ処理の基本理念を、これまでの「リサイクル型」から一歩進め、ごみの発生抑制(リデュース)から使用済み製品の再利用(リユース)、そして発生したごみの資源としての利用(リサイクル)を基本とする「循環型」に発展させることが必要である。また、長期的展望に立った資源化・減量化の目標値として、平成22年度までに、現在の資源化率(13%)を国の目標値(24%)を上回る25%まで引き上げるようにとされている。

## 2. 基本的方向～循環システムの構築～

循環型社会の形成に向けて、ごみの発生抑制に努めるとともに、これまで以上に資源化・減量化を推進していかなければならない。まず、古紙についてであるが、一般ごみのうち、古紙は約25%を占め、年間約7万トンが焼却されている。発生抑制の面では、過剰包装が障害となっており、事業者、消費者双方にごみを減らそうとする意識の改革が求められる事業者が排出する書類や段ボールも非常に大きな問題であり、古紙リサイクル工場の立地や古紙再生製品使用促進などに取り組む必要がある。

その一案として、北九州市内から出た古紙を用いて「北九州ブランド」のトイレットペーパーを製品化し、市内にその普及を図ることも考えられている。なお、リサイクル一般に関することでもあるが、回収する入り口部分と、製品化する中間部分、再生製品を使用する出口部分が確保されなければリサイクルを促進する意味がない。次に、家庭から出されるごみの約50%を占め、また、ホテル、レストランなどの事業所からも大量に出されている生ごみであるが、現在、コンポスト化容器の購入者に対する助成制度を設けているが、これにより、年間約7千トンの減量が見込まれている。今年12月からは、マンション等集合住宅に住んでいる方のために、「電気式生ごみ処理機」の助成制度も創設することとしている。今後、特にリサイクル商品の利用拡大を図るため、市民向けのリサイクル商品の常設展示などグリーン購入の促進につながる取り組みを積極的に行う必要があり、そのためには、まず、北九州市が率先してその姿勢を示すことが重要である。

## 3. ごみ処理取り組み体制の整備

循環型社会作りにあたっては、行政と市民、事業者が一体となった、それぞれの立場での自主的かつ実践的な活動が不可欠である。家庭系ごみにおいては、平成10年7月の有料指定袋制度導入の前後一年間で12.4%の減量、また、資源化物は12.5%の増加と大きな成果を上げることができた。事業系ごみは、そのほとんどが事業所からのものである自己搬入ごみが、平成9年から平成10年にかけて約2万2千トン、平成10年から平成11年にかけて約1万3千トン増えていることからわかるように、増加傾向にあり、大きな課題となっている。循環型社会作りに向けたごみの資源化・減量化意識の高揚やまち美化等の意識改革には、環境教育が重要である。また、今後の急務として効率的・効果的な処理体制の構築が目標となる。現在、ごみ処理は3か所の焼却工場と1か所の最終処分場で適正かつ安定した処理能力のもと行われている。今後のごみ量の推計や収集運搬効率、新しい技術開発などを総合的に勘案しながら、適性かつ効率的な焼却施設について、早急に整備計画を策定する必要があり、また、整備の際は民間資金や経営能力の活用も視野に入れる必要があるとされる。さらに、サーマルリサイクルの観点から、焼却工場の高効率発電や発電能力の向上の検討、ダイオキシン対策の必要性も指摘されている。ごみ処理における広域連携ごみの処理については、本来、それぞれの市町村が、その区域内で処理することが原則とされている。しかし、これからのごみの量の増加、ごみ収集の効率化を考慮し、北部九州の大都市として、政令指定都市ということも踏まえ周辺の市町村と連携しながら、ごみ処理の広域化について、特に地方拠点都市地域を中心に取り組む必要がある。市内の状況を見ると、ポイ捨てなど、まち美化が進んでいるとは言い難い状況である。まち美化に関心の高い市民団体を募り、早急にポイ捨て

多発地域などのポイ捨ての現状把握、分析を行ったうえで、具体的な施策の検討を進めていくべきである。また、ペット等のフンの処置についても指摘を受けており、まち美化の観点からの対策も検討する考えである。

#### 4 . 考察

北九州のごみだけに限らず、ごみ処理という問題は広い範囲にわたる解決すべき問題があり、それには、やはりひとりひとりの努力と心がけが大切なのだなどあらためて感じた。現状から言ってかなりの労力と時間がかかるのは間違いないが、有料ごみ袋の導入による成果も上がっており、着実に問題解決に近づいている。将来の到達目標に向けて、やれることをやっっていこうと思った。

参考文献:第6回もったいない塾、インターネットより一部抜粋